



East Asia Image Collection

Digitized photographs, negatives, postcards, and slides of colonial Taiwan (1900-45) and occupied Japan (1947-52). The collection is built around core sub-collections of visual materials donated by the family of Gerald & Rella Warner and Michael Lewis.

East Asia Image Collection (Lafayette College, USA)

本書とあわせて——絵葉書・古写真データベースの利用

貴志俊彦

本書は、学習院大学が所蔵する絵葉書コレクションから、戦前期の東アジアを中心に三〇〇点以上を厳選して、都市別にその分析を進めている。ここでは、本書掲載の絵葉書に関連した図像を参照する場合を考えて、ウェブサイトに公開（無料）されている二つの絵葉書データベースを紹介しておきたい。

・ East Asia Image Collection (EAIC)
(<https://dsslafayette.edu/collections/east-asia-image-collection/>)

全米でもっとも利用されている東アジア絵葉書データベースが、このEAICである。二〇〇二年に公開されたEAICには、大日本帝国期（一八六八〜一九四五）の東アジア各地域のみならず、占領期日本（一九四七〜五二）を含めて、二一のコレクションに分けられた六八三〇点の絵葉書、写真、絵図などが含まれている。なかでも、中核を占めているのが、国務省極東局に勤務していたジェラルド・ワーナー（Gerald Warner：在任期間一九三二〜五二）夫妻のコレクションである。ワーナー・コレクションには、戦後直後の東アジアの様子が描写されており、興味をかきたてられる。

このデータベースの運用責任者が、ラファイエット大学のポール・バークレー（Paul D. Barclay）教授である。学習院大学でも、二〇一三年六月にバークレー教授を招

いて、「図画像資料研究の可能性——East Asian Image Collections 絵葉書データベースをめぐる」と題する講演会を実施したことがある。

なお、バークレー教授が二〇一七年に公刊した『帝国のはぐれもの（*Outcasts of Empire: Japan's Rule on Taiwan's "Savage Border," 1874-1945*）』は、台湾原住民に関する膨大な絵葉書を利用、分析した意欲作である。絵葉書研究の新境地を開拓したものととして、あわせて一読をすすめたい。

・ 戦前期東アジア絵はがきデータベース
(http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G000022PPC/)

戦前の日本内地、中国、満洲、台湾、朝鮮、樺太、南洋、極東シベリアを題材にした絵葉書約二五〇〇点を収録している。筆者たちが、これを公開した二〇〇五年当時においては、日本における絵葉書データベースの先駆的試みであったが、いまや所蔵点数、検索システムを含めて更新する時期になっている。その打開策の一つが、本書末尾「旅のおわりに」で言及している絵葉書データベースの日米連携の試みである。

また、公益財団法人東洋文庫とともに構築した『亜東印画館』データベース (<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib3/>)、『亜細亜大観』データベース (<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib4/>) は、戦前の東アジアの古写真を収録している。